

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800134		
法人名	社会福祉法人慈光会		
事業所名	グループホーム津森倶楽部まどかユニット		
所在地	熊本県上益城郡益城町大字寺中1番地1		
自己評価作成日	令和7年2月5日	評価結果市町村受理日	令和7年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	慈光会ホームページにて情報公開
----------	-----------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	グループホーム津森倶楽部 運営推進委員会(令和6年度運営推進委員に依頼)
所在地	
評価日(書類送付)	令和7年 2月25日(運営会議にて依

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和6年度において津森倶楽部では、昨年度に続き新型コロナ・インフルエンザ等の施設内感染者を出すことなく経過した1年となりました。利用者及びご家族の皆さんにはコロナ禍以降、面会や外出等について制限を一部緩和した部分もありますが、未だ不自由な状況での生活が続いている面もあり、様々な我慢をしていただいております。また例年大雨等の自然災害も増加傾向にあり、今後もこれまでの経験を活かし、利用者及び家族の皆様が安心・安全に生活していただけるような感染症及び災害時にも強い施設づくりに取り組んでいく。また生活に楽しみを感じられるように、季節に応じた行事や近隣への外出等の企画・実施し、また地域の方々との交流を深める機会を設けられる様に取り組み、地域の方々から馴染みのある家となれるように目指して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の方に向き合い、寄り添った対応に努められています。災害対応もしっかりと対応されています。利用者に合わせた環境を整え、過ごしやすくしているところが素晴らしいと感じる。利用者目線で食事・行事等、色々と工夫されておられる様子が伺えます。今後共、利用者が安心して生活される様お願いします。行事ごとの料理については、どれも美味しいと利用者の笑顔が印象に残っている。バーベキューや外出など屋外での活動を行うことにより、季節を感じることができている。津森倶楽部の企業理念が職場に浸透しており、管理者及び職員が一体となって目標を達成しようとする姿勢が見られる。利用者の皆様の一挙手一投足が職員全員に共有され、早期発見・早期対応につながっており、安全・安心な環境の維持向上に取り組まれて信頼度が高い。家族との情報共有についてICTを活用され、日々の様子を把握しやすく述べて家族の安心につながっていると思われます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない		

自己評価および外部評価結果 まどかユニット

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい
			実践状況	実践状況	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に作成された事業所独自の理念を職員で共有し、理念に基づいたケアの実践につなげている。	2ヶ月に一度の運営推進会議で、事業所の中での出来事や、管理者と職員とのコミュニケーションづくりが詳細に報告され、意思の疎通が良いことがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に根付いた施設として、感染症の流行状況に応じて、出来るかぎり地域の方と交流している。	コロナ禍も落ち着き、感染症に注意されながら、地域との交流も再開されている。 地区の総会にも代表の方が出席され、交流が図られている。 津森神宮より歳祝いの神事や、正月用門松作り等、恒例行事として交流は続いている。	近隣への外出の際に車椅子での移動や、施設敷地内の草刈り等の手伝いとか、地元民で協力できることがあるのではないか。 利用者の方の地域サロンへの参加。 感染症の流行状況に応じて、交流の機会を作ってください。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や施設見学等の際は、ご家族の思いに寄り添い、施設での認知症の人との関わり方等説明したり、地域の小学校の福祉授業へ職員を派遣している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以前の様に2ヶ月毎に会議開催することが出来るようになり、会議にて運営推進委員の皆様から様々な意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月毎に開催され、運営委員からの意見を、よく聞かれていると思います。 2ヶ月間の行事やヒヤリハットの報告、対策等報告されている。 校区や地区からも責任者が参加し、状況説明や意見交換が実施されている。 会議の中での提案や意見についても、しっかりと聞いていただき誠意が伝わってくる。その様な対応力が、利用者の信頼と家族様への安心感につながっているのではと思われる。 会議で出た意見で、変更する所も見られている。	近くに津森小学校もあり、年に1~2度、子供達の訪問により歌や踊りの交流があれば、利用者の皆様の心の安定があるのではないかと思う。 認知症の方の気持ちや考えを理解するために、利用者の参加があってもいいのではないか。利用者の声を直接聞く機会があると、包括としてもありがたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい
			実践状況	実践状況	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として、会議に参加いただき施設状況を報告している。また事故発生時や介護保険に関する不明な点があった際には、報告・連絡・相談しており、協力関係が築けている。	事故発生時や介護保険に関して、報告・連絡・相談を受けています。詳しく説明してもらっており、日常の生活実態が手に取るように理解できる。定期的に運営推進会議を行って、事業内容やサービス提供について報告を行い、行政の参加もあり意見をもらっている。	包括支援センターとしても協力ができることがあれば対応いたしますので、何でもご相談下さい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、法人全体で社内研修を年間計画し実施している。また毎月会議にて身体拘束に該当する様なケアを行っていないか確認し、身体拘束が無いケアを実践している。	身体拘束は目にしたことはない。利用者の安全のため、外部へのドアの施錠はされている。 今後も継続して実施いただきたい。職員との信頼関係が最も大切です。	町と連携し、高齢者虐待防止に関する出前講座を企画していますので、ご活用ください。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に虐待についても法人全体で社内研修を年間計画し実施しており、毎月の会議にて虐待に該当する様なケアを行っていないか確認し、虐待の無いケアを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についても、法人全体で社内研修を年間計画し実施している。また社外研修にも積極的に参加し学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用契約内容、重要事項等の施設利用に必要な項目について説明し、不明な点等ないか確認して契約している。また契約内容に関する変更が生じた際には、変更内容について記載した文書を作成し、署名にて同意をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の一員として家族代表に参加していただき、会議開催時に意見や要望等について聞く機会を設けている。 また他の家族についても、外部評価に伴うアンケート調査を行い、施設やサービス内容について意見・要望等ないか尋ね、運営に反映している。	運営推進会議に家族代表の方も出席され、家族側の意見や要望も出され、施設運営について共有化がなされている。 家族との連携が密にとれています。 家族アンケートの結果、高評価が出ている。職員の質の高さがうかがわれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議・ユニット会議を開催しており、利用者に関する事や職場環境等の業務内容について意見を収集し、サービスや業務内容の改善に努めている。	毎月会議を開催し、職員意見の収集・反映に努められています。	現場の職員の方が意見を言いやすい雰囲気を作り、サービスの質の向上や業務改善につなげて下さい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課にて職員個々の業務について評価を行い、賞与等の給与査定に反映されている。 またプライベートも充実出来るように、毎月の勤務に職員個々の希望休を反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアを行う上で必要な社内研修を法人で年間計画を作成して実施しており、社外研修にも参加する機会があり知識・技術を学ぶことが出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上益城グループホーム連絡会や社外研修会への参加を通じて、互いの施設状況や情報の交換が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前及び直後に本人との面談を行い、本人の状況確認及びニーズの把握に努めている。本人が言葉にできないことについては関係機関や家族から本人の情報をいただき、現場への情報提供を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時点においてサービス担当者会議を開催している。ご家族へ本人の入居に伴う心配事や不安なことについてできる限り伺い、対応できるように配慮している。初期の段階では、家族との信頼関係の構築が十分にできていないため、入居後の情報提供などを行い、家族の状況によっては負担にならないように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受け入れ可能な状況について家族に伝えた上で、本人ができることに合わせた支援方法について家族と一緒に検討していくように配慮している。今後の状況によっては、施設の紹介等を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとり出来ることが違う為、本人に合わせてお盆拭きや洗濯物干しやたたみなどを一緒にしていただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告を作成し写真を添付して、日頃の様子や往診の内容を報告している。また人数や時間の制限はあるが、面会時にご様子を伝えるようにしている。希望の家族には食事を伴う外出は、抗原検査後行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くの神社に初詣に出かけたり、彼岸花の季節には近所の川沿いへ散歩に出かけている。	季節毎の活動状況が写真等に整理され、運営推進会議の中で紹介されている。 精神的あ安定や寄り添い支援は、一番喜ばれる事でしょう。	花見や花火など、目で見て楽しむことにも、力を入れて下さい。 事業所周囲の庭木の剪定や整備も、環境の変化で心の安らぎも出てきます。 感染対策に留意しつつ外出行事を行い、利用者の方々の気分転換や体力低下予防、地域との交流の機会を持つて下さい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しが合う方と同じテーブルにしたり、利用者同士の交流が出来るようになっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転所による退所後は、必要に応じて退所先や家族と連絡を取り、退所後も利用者・ご家族共に安心して過ごしていただけるように努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向やニーズをくみ取り支援に繋げていけるように努めている。また、職員間での情報共有を行うためにミニカンファレンスや個別に確認するなど意識して行うようにしている。	本人や家族の困りごと等の聞き取りも細目になされており、暮らしぶり等についても報告がされている。 ほほ全員が現在のサービスに満足し生活されている。 できるだけ個々の意向に添う努力が、アンケートの高評価に繋がっていると思われる。 本人の意向や希望を把握し、職員の皆さんで共有、実現に向けての取り組み素晴らしいと思います。	全てに亘り100%対応は困難であり、個人でも無理がある。いかに希望や要望に応えてあげるには、優先順位を決めて対応していくことが大切だと思います。 今後も本人の望む暮らしの実現に向け、職員の皆さま同じ方向での支援をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい
			実践状況	実践状況	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご家族に生活歴や家族構成等を聞き取りをして職員と共有し、これまでの生活を反映した施設生活が行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の施設の生活状況について担当職員が24時間の生活状況シートにまとめたものを参考に生活を実際に確認したり、計画書に反映できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活状況について、ユニットの職員から出された様々な課題がみられる時はミニカンファレンスで話し合い、状況に応じて家族や医療機関などに相談を行っている。それにより必要に応じて状況の改善が行えるように、計画の作成に盛り込むようになっている。	介護計画についても、家族同伴で説明が行われている。 職員と家族が情報を共有することで、利用者へのサービスがスムーズに行われる様な取り組みがうかがわれる。	課題があった際にミニカンファレンスの開催と、課題がなくとも定期的に開催し、本人や家族の意向を確認し、計画書に反映するようお願いします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録があり、介護職員等と確認した内容や家族、医療機関との連絡内容について支援経過記録に残す(ミニカンファレンスも含めて)ようにしている。家族とのやり取りなどで個別の支援に関連がある場合などは、職員間で情報共有できるようユニット職員にお伝えしたりケース記録に残すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出を喜ばれる利用者が多いため、個別や数人で外出したり散歩をする機会を設けている。また、本人が希望される物や必要物品については随時購入できるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以降交流の機会は少なく、現在も感染症への警戒が必要である。地域の方から暖かい支援をいただく機会があり、野菜や門松などいただいたり、飾り馬の見学、神宮の例大祭に参加させていただく機会や利用者とともに神社へのお参りなどの外出行い、利用者の交流支援をできる限り行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診される際には情報書を作成し、家族が担当医へ施設での状況が伝えられるようにしている。また訪問診療を希望される方には、訪問診療医の紹介を行い家族の対応が困難な方にも適切な医療が受けられるように努めている。	健康面、医療面等の管理についても、ほとんどの家族から信頼を得て運営されている。 訪問診療医との連携は、良くとれている。	利用者の皆さまの日々の健康管理に努め、急な体調変化にも対応できる体制づくりをお願いします。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設職員として看護師有資格者を1名配置している。入居者の体調変化が見られた際には状態報告を行い、受診を含め対応について相談している。また訪問診療対象者についても同様に、状態変化時には状態報告を行い、状態に応じた指示を得て対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、施設でのケア内容や生活状況等について情報提供を行い、入院期間等の確認を行っている。また提携している協力医療機関については、毎月利用者の状態報告を行う機会があり、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の方が重度化した場合や、終末期についての検討が必要となつた際には、本人の状態について家族への説明、意向確認を行い、意向に沿えるように、訪問診療医や法人施設と連携して対応している。	自己評価されて、実践されていることで十分ではないでしょうか。	住み慣れたグループホームで、家族や職員の皆さんに見守られながら、最期を迎えることができる環境作りができるといいと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	AEDの使用方法や心肺蘇生等についての実技訓練や、事故発生時の対応について社内研修を計画し実施している。事例発生時には情報共有を行い、対応について振り返り、改善点等について検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害等発生時に備えBCPが作成されており、また定期的に防災訓練及び防災教育を実施している。また大雨や台風等による影響が考えられる際は、法人と連携し法人関連施設への避難を実施している。	町から高齢者等避難指示が発令された場合、法人関連施設へ、避難したとの連絡を受けている。 大雨や台風の折には、早めに関連施設への避難を実施されており、職員の負担は大きいと思うが、地元民として感心させられています。 避難の都度、家族への連絡もあり安心できている。 定期的に防災訓練及び防災教育を実施されており、法人との協力体制もとれている。地域住民の方々との連携体制も整っている。	特に身体の不自由な方の対応が困難だと思います。自然災害は、やはり日頃の避難訓練が大切です。継続して実施願います。また火事を出さない防災教育は継続して実施願います。 地域の消防団等とも連携をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい
			実践状況	実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36		(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助時に利用者と目線を合わせて、行うようしている。また利用者の話しには傾聴し、寄り添うような声掛けが出来よう心がけている。トイレを開けたままされる方には声掛けし閉めたり、排泄の確認時は小声で行うなどプライバシーの確保に努めている。	利用者と対話する時に、笑顔で話しをしている様子を目にする。話し方も自然とやさしくなっている。 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保のため、対利用者、職員間で適切に対応されていると思われます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、利用者様の思いや希望を汲み取るような対応を心がけている。 言葉での表現がうまくできない方には、表情や声の変化を汲み取り、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人が出来る事を見つけて、役割を持つことで、その方らしい生活を送れるように努めている。 日々の行動は、本人のペースを大切に、その時の気持ちを尊重し、個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え、整髪、髭剃りなど身だしなみを整えていただいている。定期的に訪問理容を利用し、本人様の希望を伝えてカットしてもらい、おしゃれを楽しんでもらっている。希望の方には、ご家族様同行にて馴染みの理容店へ行かれている 利用者様が着たい物をご自分で選んでいただき、衣類調整が難しい方には一緒に服選びを行い、おしゃれができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい
			実践状況	実践状況	
40		(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんでいただけるように、色合いや品数を工夫して、季節に合わせた献立や行事食を提供している。 食後、お盆拭きなどのお手伝いをしていただいている。	介護の仕事を経験したものとして思うのは、利用者の楽しみの一つが食事だと思います。季節や行事に合わせた、きめ細かに工夫された食事が提供されている。(試食しましたが、美味しく色合いも良かったです) 食事の素晴らしさは定評である。 料理は美味しいで、利用者に喜ばれている。 利用者と一緒に片付け等行われており、利用者の自立支援にもつながると思われます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分一覧表に記録し、1日の食事量や水分量が適切に摂れているのか確認できている。体重の増減に応じて食事量を変更して、適正体重が維持できるようにしている。 出来るだけご自分で食べてもらえるように、一口の大きさや、嚥下の状態を見ながらトロミが必要な方は水分や汁物を調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後に口腔ケアへの声掛けを行い、口腔ケアを実施している。 ・自歯の方で自身で口腔ケアが出来ない方は、歯ブラシを使い口腔ケアの介助を行っている。		
43		(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・ひとり一人の排泄状況に応じて、パッドの選定を行っている。 ・排泄の訴えが聞かれない方は、定時にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄に取り組んでいる。	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組まれていると思います。 パッド使用量を減らすことも意識されており、コスト面にも配慮されていると思います。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 朝の朝食前の牛乳の提供、牛乳がNGの方には乳酸菌飲料を提供している。 1日1000ccの水分確保できるように、水分の提供を行っている。 主治医へ排便状況を報告し、必要時には下剤や坐薬を処方いただいている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 入浴に関しては、楽しみにされている方が多くみられる。 入浴拒否の方には、ご本人の訴えを受けとめ寄り添い対応している。 	入浴は個別で実施される様で、利用者の方を見る限り清潔にされており、問題ないと思われる。	入浴を楽しみにされている方は多いと思います。一人ひとりの希望やタイミングをに合わせて入浴を楽しめるように、頻度や時間帯の調整をお願いします。 拒否の方に関しても、なぜ拒否をされるのか、本人の意向の確認をお願いします。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合った寝具・リネンを使用し、一人ひとりに合った居室の温度調節をしている。冬は乾燥対策として、居室に濡らしたタオルを掛けている。部屋の明るさや照明は、希望に沿って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<p>個人のファイルに処方箋を入れ、いつでも確認出来るようにしている。</p> <p>薬の変更があった際には、記録に残し情報共有出来るようにしている。服薬介助時には、服薬ミスがない様にダブルチェックをしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、お盆拭きなど個々の能力に合わせて、お手伝いをしていただいている。ウッドデッキでは、花や野菜を植えて収穫する作業を職員と一緒に行ったり、お茶会や日光浴をしている。レクリエーション活動として時にはバーベキュー、焼き芋会を行い、気分転換をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の神社へ初詣や、施設前の河川敷へ彼岸花を見に散歩をしたり、紅葉を見にドライブに行ったり、季節に合った場所へ散歩やドライブに出かけている。	運営推進会議で季節毎の活動状況の説明を受け、写真により活動が確認された。 季節に合わせ近隣への散策は実施されており、写真等で報告される。	事前に連絡いただければ、お手伝いは出来ることがあると思います。 ドライブはトイレの設備など、場所の選定が難しいと聞く。 利用者の方々の気分転換や、地域との交流の機会を持って下さい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	消耗品等の必要な物の購入については、預かり金より購入して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方から、家族への連絡の希望があった際は、職員が家族へ連絡し電話対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい
			実践状況	実践状況	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーとなっており、各居室 やリビング等、温度湿度計を設置し て、室温調整し快適な環境となるよ う配慮している。 また季節の物を飾り、生活に彩りを 持たせる工夫を行っている。	利用者の方が居心地よく、過ごせる工夫 がされています。 施設内の清掃は行き届いており、清潔な 心地良い空間となっている。 共有スペースには、季節を感じるものが 飾られている。 居心地のよい共有空間づくりのために、 環境整備に配慮されている。	敷地の庭が少々残念である。 今後も利用者の方と一緒に、心地 よい空間づくりに努めてください。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合つた利用者同士で思い思に過ごせるような 居場所の工夫をしている	ソファーをリビングに設置してお り、他者と身近な会話ができるよう にし ている。 ユニット外の共有空間に椅子を設 置し、ユニット外にも居場所作りを して いる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と 相談しながら、使い慣れたものや好みのものを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような 工夫をしている	自宅より、愛用されていた家具を持 込んでいただいたり、利用者がい い心地よく過ごせるようにして いる。また写真や花や植物等利用者 の好みの物を飾る工夫をして いる。	季節を取り入れた折り紙やハガキ等、め につきやすい様、手に取りやすい様に 飾ってある。 ご本人に合わせた、お部屋の環境が作 られている。 居心地よく過ごせる居室の配慮のため、 利用者の方の使い慣れた物や、写真な どを持ち込むことができるよう配慮さ れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わからること」を活かして、安全かつできるだけ自立 した生活が送れるように工夫している	建物内部は全面バリアフリーとなっ ており、通路やトイレ等必要箇所に は手すりが設置されており、また利 用者に合わせた机や椅子を配置し ている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800134		
法人名	社会福祉法人慈光会		
事業所名	グループホーム津森倶楽部なごみユニット		
所在地	熊本県上益城郡益城町大字寺中1番地1		
自己評価作成日	令和7年2月5日	評価結果市町村受理日	令和7年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	慈光会ホームページにて情報公開
----------	-----------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	グループホーム津森倶楽部 運営推進委員会(令和6年度運営推進委員に依頼)
所在地	
評価日(書類送付)	令和7年 2月25日(運営会議にて依

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和6年度において津森倶楽部では、昨年度に続き新型コロナ・インフルエンザ等の施設内感染者を出すことなく経過した1年となりました。利用者及びご家族の皆さんにはコロナ禍以降、面会や外出等については制限を一部緩和した部分もありますが、未だ不自由な状況での生活が続いている面もあり、様々な我慢をしていただいております。また例年大雨等の自然災害も増加傾向にあり、今後もこれまでの経験を活かし、利用者及び家族の皆様が安心・安全に生活していただけるような感染症及び災害時にも強い施設づくりに取り組んでいく。また生活中に楽しみを感じられるように、季節に応じた行事や近隣への外出等の企画・実施し、また地域の方々との交流を深める機会を設けられる様に取り組み、地域の方々から馴染みのある家となれるように目指して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の方に向き合い、寄り添った対応に努められています。災害対応もしっかりと対応されています。利用者に合わせた環境を整え、過ごしやすくしているところが素晴らしいと感じる。利用者目線で食事・行事等、色々と工夫されておられる様子が伺えます。今後共、利用者が安心して生活される様お願いします。行事ごとの料理については、どれも美味しいと利用者の笑顔が印象に残っている。バーベキューや外出など屋外での活動を行うことにより、季節を感じることができている。津森倶楽部の企業理念が職場に浸透しており、管理者及び職員が一体となって目標を達成しようとする姿勢が見られる。利用者の皆様の一挙手一投足が職員全員に共有され、早期発見・早期対応につながっており、安全・安心な環境の維持向上に取り組まれて信頼度が高い。家族との情報共有についてICTを活用され、日々の様子を把握しやすく述べて家族の安心につながっていると思われます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しづつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果 なごみユニット

自己 外 部	項 目	自己評価		外部評価
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に作成された事業所独自の理念を職員で共有し、理念に基づいたケアの実践につなげている。	2ヶ月に一度の運営推進会議で、事業所の中での出来事や、管理者と職員とのコミュニケーションづくりが詳細に報告され、意思の疎通が良いことがうかがえる。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に根付いた施設として、感染症の流行状況に応じて、出来るかぎり地域の方と交流している。	コロナ禍も落ち着き、感染症に注意されながら、地域との交流も再開されている。 地区の総会にも代表の方が出席され、交流が図られている。 津森神宮より歳祝いの神事や、正月用門松作り等、恒例行事として交流は続いている。	近隣への外出の際に車椅子での移動や、施設敷地内の草刈り等の手伝いとか、地元民で協力できることがあるのではないか。 利用者の方の地域サロンへの参加。 感染症の流行状況に応じて、交流の機会を作ってください。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や施設見学等の際は、ご家族の思いに寄り添い、施設での認知症の人との関わり方等説明したり、地域の小学校の福祉授業へ職員を派遣している。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以前の様に2ヶ月毎に会議開催することが出来るようになり、会議にて運営推進委員の皆様から様々な意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月毎に開催され、運営委員からの意見を、よく聞かれていると思います。 2ヶ月間の行事やヒヤリハットの報告、対策等報告されている。 校区や地区からも責任者が参加し、状況説明や意見交換が実施されている。 会議の中での提案や意見についても、しっかり聞いていただき誠意が伝わってくる。その様な対応力が、利用者の信頼と家族様への安心感につながっているのではと思われる。 会議で出た意見で、変更する所も見られている。	近くに津森小学校もあり、年に1~2度、子供達の訪問により歌や踊りの交流があれば、利用者の皆様の心の安定があるのではないかと思う。 認知症の方の気持ちや考えを理解するために、利用者の参加があってもいいのではないか。利用者の声を直接聞く機会があると、包括としてもありがたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい
			実践状況	実践状況	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として、会議に参加いただき施設状況を報告している。また事故発生時や介護保険に関する不明な点があった際には、報告・連絡・相談しており、協力関係が築けている。	事故発生時や介護保険に関して、報告・連絡・相談を受けています。詳しく説明してもらっており、日常の生活実態が手に取るように理解できる。定期的に運営推進会議を行って、事業内容やサービス提供について報告を行い、行政の参加もあり意見をもらっている。	包括支援センターとしても協力ができることがあれば対応いたしますので、何でもご相談下さい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、法人全体で社内研修を年間計画し実施している。また毎月会議にて身体拘束に該当する様なケアを行っていないか確認し、身体拘束が無いケアを実践している。	身体拘束は目にしたことはない。利用者の安全のため、外部へのドアの施錠はされている。 今後も継続して実施いただきたい。職員との信頼関係が最も大切です。	町と連携し、高齢者虐待防止に関する出前講座を企画していますので、ご活用ください。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に虐待についても法人全体で社内研修を年間計画し実施しており、毎月の会議にて虐待に該当する様なケアを行っていないか確認し、虐待の無いケアを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についても、法人全体で社内研修を年間計画し実施している。また社外研修にも積極的に参加し学ぶ機会を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用契約内容、重要事項等の施設利用に必要な項目について説明し、不明な点等ないか確認して契約している。また契約内容に関する変更が生じた際には、変更内容について記載した文書を作成し、署名にて同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の一員として家族代表に参加していただき、会議開催時に意見や要望等について聞く機会を設けている。 また他の家族についても、外部評価に伴うアンケート調査を行い、施設やサービス内容について意見・要望等ないか尋ね、運営に反映している。	運営推進会議に家族代表の方も出席され、家族側の意見や要望も出され、施設運営について共有化がなされている。 家族との連携が密にとれています。 家族アンケートの結果、高評価が出ている。職員の質の高さがうかがわれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議・ユニット会議を開催しており、利用者に関する事や職場環境等の業務内容について意見を収集し、サービスや業務内容の改善に努めている。	毎月会議を開催し、職員意見の収集・反映に努められています。	現場の職員の方が意見を言いやすい雰囲気を作り、サービスの質の向上や業務改善につなげて下さい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課にて職員個々の業務について評価を行い、賞与等の給与査定に反映されている。 またプライベートも充実出来るように、毎月の勤務に職員個々の希望休を反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアを行う上で必要な社内研修を法人で年間計画を作成して実施しており、社外研修にも参加する機会があり知識・技術を学ぶことが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上益城グループホーム連絡会や社外研修会への参加を通じて、互いの施設状況や情報の交換が出来るよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前及び直後に本人との面談を行い、本人の状況確認及びニーズの把握に努めている。本人が言葉にできないことについては関係機関や家族から本人の情報をいただき、現場への情報提供を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時点においてサービス担当者会議を開催している。ご家族へ本人の入居に伴う心配事や不安なことについてできる限り伺い、対応できるように配慮している。初期の段階では、家族との信頼関係の構築が十分にできていないため、入居後の情報提供などを行い、家族の状況によっては負担にならないように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受け入れ可能な状況について家族に伝えた上で、本人ができることに合わせた支援方法について家族と一緒に検討していくように配慮している。今後の状況によっては、施設の紹介等を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならない様に、利用者に尋ねながら職員主体とならないように、利用者の方と一緒に出来る事を探りながら、無理ない程度に家事手伝いなどを行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場における かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共 に本人を支えていく関係を築いている	御家族様には毎月近況報告シート を作成し状態について報告してい る。 面会があった日には、日頃のご様 子について報告、相談している。 体調変化があった場合は、御家族 様が不安にならないように電話報告 をこまめに行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に努 めている	地域を含めて馴染みのある場所(津 森神宮やスーパー)に外出、散歩を行 っている。	季節毎の活動状況が写真等に整理さ れ、運営推進会議の中で紹介されてい る。 精神的あ安定や寄り添い支援は、一番 喜ばれる事でしょう。	花見や花火など、目で見て楽しむ ことにも、力を入れて下さい。 事業所周りの庭木の剪定や整備 も、環境の変化で心の安らぎも出 てきます。 感染対策に留意しつつ外出行事 を行い、利用者の方々の気分転 換や体力低下予防、地域との交 流の機会を持って下さい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるような支援に努めている	席への配慮、トラブルがある方もお られるので状況を把握し、関係が悪 化しないよう職員が間に入ってい る。 レクレーション活動や体操など何か 活動を行う時は、職員利用者共に 行い孤立感を感じないように努め ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまで の関係性を大切にしながら、必要に応じて本 人・家族の経過をフォローし、相談や支援に 努めている	入院や転所による退所後は、必要 に応じて退所先や家族と連絡を取り、退所後も利用者・ご家族共に安 心して過ごしていただけるように努 めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向やニーズをくみ取り支援に繋げていくように努めている。また、職員間での情報共有を行うためにミニカンファレンスや個別に確認するなど意識して行うようにしている。	本人や家族の困りごと等の聞き取りも細目になされており、暮らしぶり等についても報告がされている。 ほほ全員が現在のサービスに満足し生活されている。 できるだけ個々の意向に添う努力が、アンケートの高評価に繋がっていると思われる。 本人の意向や希望を把握し、職員の皆さまで共有、実現に向けての取り組み素晴らしいと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご家族に生活歴や家族構成等を聞き取りをして職員と共有し、これまでの生活を反映した施設生活が行えるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の施設の生活状況について担当職員が24時間の生活状況シートにまとめたものを参考に生活を実際に確認したり、計画書に反映できるように努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活状況について、ユニットの職員から出された様々な課題がみられる時はミニカンファレンスで話し合い、状況に応じて家族や医療機関などに相談を行っている。それにより必要に応じて状況の改善が行えるように、計画の作成に盛り込むようにしている。	介護計画についても、家族同伴で説明が行われている。 職員と家族が情報を共有することで、利用者へのサービスがスムーズに行われる様な取り組みがうかがわれる。
				課題があった際にミニカンファレンスの開催と、課題がなくとも定期的に開催し、本人や家族の意向を確認し、計画書に反映するようお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録があり、介護職員等と確認した内容や家族、医療機関との連絡内容について支援経過記録に残す(ミニカンファレンスも含めて)ようしている。家族とのやり取りなどで個別の支援に関連がある場合などは、職員間で情報共有できるようユニット職員にお伝えしたりケース記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出を喜ばれる利用者が多いため、個別や数人で外出したり散歩をする機会を設けている。また、本人が希望される物や必要物品については随時購入できるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以降交流の機会は少なく、現在も感染症への警戒が必要である。地域の方から暖かい支援をいただく機会があり、野菜や門松などいただいたり、飾り馬の見学、神宮の例大祭に参加させていただく機会や利用者とともに神社へのお参りなどの外出行い、利用者の交流支援ができる限り行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診される際には情報書を作成し、家族が担当医へ施設での状況が伝えられるようにしている。また訪問診療を希望される方には、訪問診療医の紹介を行い家族の対応が困難な方にも適切な医療が受けられるように努めている。	健康面、医療面等の管理についても、ほとんどの家族から信頼を得て運営されている。 訪問診療医との連携は、良くとれている。	利用者の皆さまの日々の健康管理に努め、急な体調変化にも対応できる体制づくりをお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設職員として看護師有資格者を1名配置している。入居者の体調変化が見られた際には状態報告を行い、受診を含め対応について相談している。また訪問診療対象者についても同様に、状態変化時には状態報告を行い、状態に応じた指示を得て対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう、又、できるだけ早期に退院できるよう、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、施設でのケア内容や生活状況等について情報提供を行い、入院期間等の確認を行っている。また提携している協力医療機関については、毎月利用者の状態報告を行う機会があり、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の方が重度化した場合や、終末期についての検討が必要となった際には、本人の状態について家族への説明、意向確認を行い、意向に沿えるように、訪問診療医や法人施設と連携して対応している。	自己評価されて、実践されていることで十分ではないでしょうか。	住み慣れたグループホームで、家族や職員の皆さんに見守られながら、最期を迎えることができる環境作りができるといいと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	AEDの使用方法や心肺蘇生等についての実技訓練や、事故発生時の対応について社内研修を計画し実施している。事例発生時には情報共有を行い、対応について振り返り、改善点等について検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい
			実践状況	実践状況	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害等発生時に備えBCPが作成されており、また定期的に防災訓練及び防災教育を実施している。また大雨や台風等による影響が考えられる際は、法人と連携し法人関連施設への避難を実施している。	町から高齢者等避難指示が発令された場合、法人関連施設へ、避難したとの連絡を受けている。 大雨や台風の折には、早めに関連施設への避難を実施されており、職員の負担は大きいと思うが、地元民として感心させられています。 避難の都度、家族への連絡もあり安心できている。 定期的に防災訓練及び防災教育を実施されており、法人との協力体制もとれている。地域住民の方々との連携体制も整っている。	特に身体の不自由な方の対応が困難だと思います。自然災害は、やはり日頃の避難訓練が大切です。継続して実施願います。また火事を出さない防災教育は継続して実施願います。 地域の消防団等とも連携をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの際には、声のトーンや相手が不安や不快感を感じないように声掛けをしており、利用者が分からぬことがあっても不安になられている際には寄り添った対応を行っている。	利用者と対話する時に、笑顔で話しをしている様子を目にする。話し方も自然とやさしくなっている。 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保のため、対利用者、職員間で適切に対応されていると思われます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に意思を確認をし判断もらっている。 10時のお茶の時間に飲みたいものを確認を行い、提供している。 入浴に行く際、意思確認を行いご本人の判断で入ってもらっている。就寝時間についても、ご本人が寝たい時間に判断して臥床していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中、リビングや自室でテレビを視聴したり、休んでいただいたりと一人ひとりのペース個々に合わせた過ごし方を支援している。食事の好みも出来るだけ対応し、誕生日には食べたいものを事前に聞き、好きなものを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援している	衣類の選択、衣替えを行い季節に合った衣類の交換を支援している。 2か月に一回、訪問散髪にて好みの髪型にしていただいている。 朝の起床時に声掛けを行い、洗顔・髪を整えたり身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物、季節の物を提供する食事行事を開催している。また、食材のカット等出来る範囲で一緒に行っている。 毎日の食事にて、副菜や汁物など見栄えの良い器と盛り付けを行い、食欲が出るよう食事を楽しんでいたけるよう提供している。 外食レクにて食べたいもの一緒に買いに行ったり、移動販売にて食べたいパンを買う機会を作っている。	介護の仕事を経験したものとして思うのは、利用者の楽しみの一つが食事だと思います。季節や行事に合わせた、きめ細かに工夫された食事が提供されている。(試食しましたが、美味しく色合いも良かったです) 食事の素晴らしさは定評である。 料理は美味しいようで、利用者に喜ばれている。 利用者と一緒に片付け等行われており、利用者の自立支援にもつながると思われます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は毎日記録に残し、食事や水分摂取量の低下が見られる時は、栄養士や主治医に相談し栄養水分の確保支援を行っている。水分摂取が少ない利用者には、こまめに声掛けを行い水分を摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、必要な方には介助を行っている。 義歯を外し、洗浄を行い外した義歯は毎日消毒を行っている。 必要時、御家族様に相談・報告を行い、訪問歯科にみていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい
			実践状況	実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パッドの種類、排泄状況に応じて1人1人に合ったパッドを選んでいる。排泄のパターンを確認し、トイレへ誘導する時間帯を把握して、声掛けを行いながらトイレでの排泄を促し、パッドの使用量を減らしている。	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組まれていると思います。 パッド使用量を減らすことも意識されており、コスト面にも配慮されていると思います。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳やぐんぐんグルトを飲用している。排便が一2日目に上がった方には追加で牛乳を提供し、可能な限り下剤などを使用しないで自然排便を促している。希望者にはご家族様に相談を行い、了承を得てヤクルトの提供をしている。排便の有無を記録に残し、必要に応じて、下剤や坐薬の使用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	一人ずつ個浴でゆっくりと入浴をしていただいている。匂いのいい入浴剤を使用しリラックスした時間を過ごしていただいている。時期に応じて、菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいただいている。入浴の声かけを行い希望のタイミングではない時は時間をずらしながら本人の希望に添いながら対応している。	入浴は個別で実施される様で、利用者の方を見る限り清潔にされており、問題ないと思われる。	入浴を楽しみにされている方は多いと思います。一人ひとりの希望やタイミングをに合わせて入浴を楽しめるように、頻度や時間帯の調整をお願いします。 拒否の方に関しても、なぜ拒否されるのか、本人の意向の確認をお願いします。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の希望や状態に合わせて卧床の声かけを行い、安心して休んでいただけるように居室の清掃・環境整備・室温の調整・寝具の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援については、必ず職員が2重確認を行い、声出し確認をしている。その後、利用者様の服薬時にも〇月〇日・〇〇様・〇〇後等を利用者様の前で唱和を行い、誤薬等の事故が起きないように徹底している。また、1人1人のお薬については、薬情報を確認し、薬の量や種類の変更があった場合は主治医や薬局に薬の効能や副反応、量について確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・洗濯物置み・ホール、廊下などの掃除・食器拭きなど、利用者様に合わせたお手伝いをお願いし、日々の生活で役割が持てるよう個別に沿った支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事に沿って、外出支援を行っている。ウッドデッキでバーベキュー・彼岸花見学。焼き芋会・初詣見学。また、日常の生活でも季節感を感じていただくため、敷地内でも散歩をしていただいている。 数名の利用者様と共に買い物に外出をしている。	運営推進会議で季節毎の活動状況の説明を受け、写真により活動が確認された。 季節に合わせ近隣への散策は実施されており、写真等で報告される。	事前に連絡いただければ、お手伝いは出来ることがあると思います。 ドライブはトイレの設備など、場所の選定が難しいと聞く。 利用者の方々の気分転換や、地域との交流の機会を持って下さい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本事務所で管理しており、利用者様には持っていたいいないが、外出時や必要な物がある際には、御家族へ連絡を行い預かり金からお金を使う支援をしている。買った物については出納帳に記入をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい
			実践状況	実践状況	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙など施設に届いた際は、利用者様に渡しており、電話があった場合も、職員より状態をお伝えしながら利用者様の方が電話でやりとりができるようにしている。一部の利用者様ではあるが、携帯電話をお持ちの方に関しては、職員で預かりながら管理をしている。また、施設での普段の様子を家族へLINEにて写真を送ったり、日頃の様子を報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間、居室などの掃除をし季節に応じた掲示物を壁に掲示したりゆっくりくつろげる工夫を行っている。共有スペースも清潔かつ心地よく過ごしていただける空間作りに努めている。定期的な換気を行い、感染対策を行っている。	利用者の方が居心地よく、過ごせる工夫がされています。 施設内の清掃は行き届いており、清潔な心地良い空間となっている。 共有スペースには、季節を感じるもののが飾られている。 居心地のよい共有空間づくりのために、環境整備に配慮されている。	敷地の庭が少々残念である。 今後も利用者の方と一緒に、心地よい空間づくりに努めてください。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席の位置については入居者同士の相性に配慮して決めトラブルがあった際にはその都度職員間で話し合い席位置や机の配置の変更を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の生活スタイルに合わせた居室作りとレクで作った個人の作品を飾ったり好きなものを置いて過ごしやすい家具の配置を行っている	季節を取り入れた折り紙やハガキ等、めにつきやすい様、手に取りやすい様に飾ってある。 ご本人に合わせた、お部屋の環境が作られている。 居心地よく過ごせる居室の配慮のため、利用者の方の使い慣れた物や、写真などを持ち込むことができるよう配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わからること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングなどの共有空間、居室の移動動線に障害物を置かず、押し車や車椅子での移動の際の安全面に配慮している。		